

《2023年度》 環境経営レポート



運用期間：2023年4月1日～2024年3月31日

2024年6月13日発行



日本ボーチフレーバー株式会社



1. 組織の概要
2. 対象範囲
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標（中長期）
5. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組み内容
6. 環境目標及び環境経営計画の実績
7. 環境経営計画の取組結果とその評価、
並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画
8. 取組推移
9. 主な社内活動の紹介①
10. 主な社内活動の紹介②
11. 主な社内活動の紹介③
12. 環境関連法規等の厳守の状況確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無
13. 代表者による全体の評価と見直し・指示



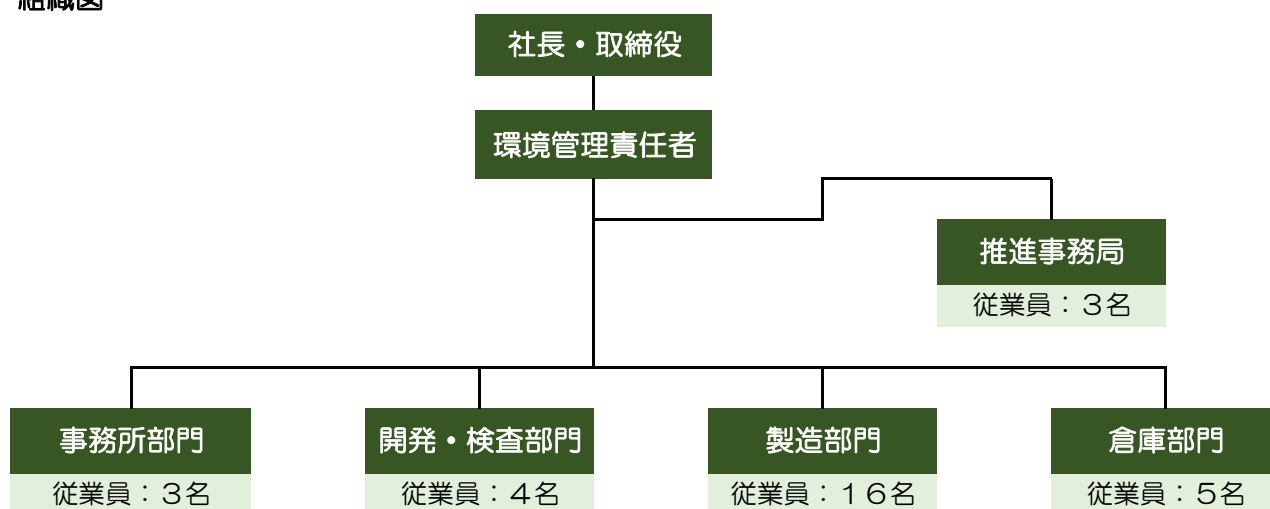
1：組織の概要

- (1) 企業名 日本ボーチフレーバー株式会社
代表者氏名 代表取締役社長 齋藤 貞大
- (2) 所在地 宇都宮市瑞穂3丁目1-1
連絡先 TEL 028-656-3825
FAX 028-656-1676
- (3) 環境管理責任者 工場長 仁平 定夫
- (4) 事業内容 ・業務用ソース（フルーツソース・チョコレートソース・キャラメルソース等）の開発及び製造
・食品の冷蔵庫業
- (5) 認証取得 FSSC22000（食品安全マネジメントシステム）
- (6) 事業の規模
創業 1962年4月
資本金 1,000万円
売上高 918百万（2023年度）

単位:百万円

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	616	665	861	918
従業員数	31人	31人	31人	32人
事業所敷地面積	9,063m ²	9,063m ²	9,063m ²	9,063m ²

(7) 組織図



2：対象範囲

全組織、全活動を対象とする。

- ・全組織：日本ボーチフレーバー株式会社 宇都宮事業所
- ・全活動：業務用ソース（フルーツソース・チョコレートソース・キャラメルソース等）の開発及び製造、食品の冷蔵庫業

環境理念

当社は全世界の課題である地球環境保全を企業活動の最重要課題として認識する。かけがえのない地球環境を大切にすると共に環境に配慮した企業活動を通じて、次世代へより良い地球環境のち地球に引き継ぐことを目的とします。

環境経営方針

当社は、食品の製造・販売を主とする企業活動において、地球環境の保全に積極的に取り組み改善活動を進めていくため、以下の「環境経営方針」を策定します。

1. 法令順守
 - ・環境に関する法規則、業界団体のルールを厳守します。
2. 3R『Reduce（削減）・Reuse（再利用）・Recycle（再生利用）』の取り組み
 - ・省エネルギーによるCO2・廃棄物排出量の削減、天然資源使用量削減、再生・再利用に取り組みます。
 - ・食品廃棄物のリサイクル率の向上に努めます。
 - ・グリーン購入を推進します。
 - ・容器包装リサイクルの減量化に努めます。
3. エコアクション21の取り組み
 - ・マネジメントシステムにより、継続的改善を進めます。
4. 食品廃棄物等の発生抑制の取り組み
 - ・原材料の使用量の合理化や食品ロスを減少させ食品廃棄物の発生を未然に抑制するように努めます。
5. 汚染の防止
 - ・環境汚染に対し、未然防止に努めます。
6. 人材育成
 - ・社員の環境への意識向上と保全への取り組みのための教育訓練を継続的行います。
7. 社会との共生
 - ・環境問題に対し、常に自然や社会との共生を図ります。
 - また、コミュニケーションを大切にします。

2022年3月4日
日本ボーチフレーバー株式会社
代表取締役社長 齋藤 貞大

4：環境経営目標（中長期）

活動	対象項目（年間）	2018年度基準	2023年度目標	2024年目標	2025年目標
		（2018年4月～ 2019年3月）	（2023年4月～ 2024年3月）	（2024年4月～ 2025年3月）	（2025年4月～ 2026年3月）
二酸化炭素削減に係る項目	電気使用量 総量（kWh） 原単位	1,258,264 1,726	基準年－24% 956,281 1,312	基準年－28% 905,950 1,243	基準年－30% 880,785 1,208
	ガソリン使用量 総量（リットル） 原単位	1,669 2.29	基準年－5% 1,586 2.17	基準年－10% 1,502 2.06	基準年－12% 1,469 2.01
	軽油使用量 総量（リットル） 原単位	212 0.291	基準年－5% 201 0.276	基準年－6% 199 0.273	基準年－8% 195 0.268
	灯油使用量 総量（リットル） 原単位	400 0.549	基準年－5% 380 0.521	基準年－20% 320 0.439	基準年－22% 312 0.428
	都市ガス使用量 総量（m3） 原単位	50,927 69.86	基準年－5% 48,381 66.37	基準年+5% 53,473 73.35	基準年+3% 52,455 71.95
	液化石油ガス 総量（kg） 原単位	48 0.066	基準年－5% 46 0.063	基準年－6% 45 0.062	基準年－8% 44 0.061
	総CO2排出量 総量（kg-CO ₂ ） 原単位	616,350 845	基準年－24% 468,426 643	基準年－25% 462,263 634	基準年－27% 449,936 617
廃棄物削減に係る項目	廃プラ：固形燃料 総量（kg） 原単位	14,760 20.25	基準年－5% 14,022 19.23	基準年－20% 11,808 16.20	基準年－22% 11,513 15.79
	廃プラ：サマリサイクル 総量（kg） 原単位	9,420 12.92	基準年－5% 8,949 12.28	基準年+30% 12,246 16.80	基準年+28% 12,058 16.54
	汚泥 総量（kg） 原単位	39,530 54.22	基準年－5% 37,554 51.51	基準年－3% 38,344 52.60	基準年－5% 37,554 51.51
	食品廃棄物排出量 総量（kg） 原単位	11,750 16.12	基準年－5% 11,163 15.31	基準年－6% 11,045 15.15	基準年－8% 10,810 14.83
係使用する水項目に目	上水 総量（m3） 原単位	6,936 9.51	基準年－5% 6,589 9.04	基準年+10% 7,630 10.47	基準年+8% 7,491 10.28
	地下水 総量（m3） 原単位	14,291 19.60	基準年－5% 13,576 18.62	基準年－10% 12,862 17.64	基準年－12% 12,576 17.25
化学物質に関する項目	エクリン110号 総量（kg） 原単位	160 0.219	基準年－5% 152 0.209	基準年+50% 240 0.329	基準年+48% 237 0.325
	エクリン3号 総量（kg） 原単位	40 0.0549	基準年－5% 38.0 0.0521	基準年－6% 37.6 0.0516	基準年－8% 36.8 0.0505
	プロセンテ除菌漂白剤 総量（kg） 原単位	240 0.329	基準年－5% 228 0.313	基準年+20% 288 0.395	基準年+18% 283 0.388
再発生抑制項目に及び	発生量原単位 （単位：kg/百万円）	14.59	基準年－5% 13.86	基準年－6% 13.71	基準年－8% 13.42
	再生利用実施率（単位：%）	95.0	基準年－2.5% 97.4	基準年－2.5% 97.4	基準年－2.5% 97.4
不適合製品の発生件数削減 （単位：件/年）		4	1	1	1

※電気の排出係数は平成30年度分環境省2020.1.7公表の東京ガス排出係数0.398kgco₂/kWhを使用

※原単位は、2018年度売上729百万円を割った数値

5：環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取り組み内容

方針	取り組み内容	目標達成に向けての実施内容	担当者	責任者
二酸化炭素排出量削減	電気使用量の削減	冷凍機の温度状況を把握し設定温度の調整	全従業員	推進事務局
		照明は、使用時のみ点灯してつけっぱなしにしない		
		空調の設定温度管理、冷房28℃暖房22℃		
		工場棟の照明LFDに変更		
	ガソリン・灯油使用量の削減	エコドライブを意識して急ブレーキや急発進の防止	倉庫事務所	各責任者
		エコカーの購入		
		ストーブの必要性が無い時は消す		
	都市ガス使用量の削減	不要時のボイラー停止を徹底	調合担当 充填担当	各責任者
		ボイラーの適切な管理を実施		
		(エコソルトの補充、エコジャケットの装着等)		
廃棄物の削減及びリサイクルの推進	廃棄物削減 発生抑制 再生利用	産業廃棄物（廃プラスチック）の分別	全従業員	環境管理責任者 推進事務局 各責任者
		(固定燃料化・サーマルリサイクル)		
		工場排水を減らし、汚泥の削減		
		製品廃棄の削減		
		(人為的ミス、賞味期限延長等)		
		原料容器の変更		
		(プラ容器から段ボール容器に変更等)		
使用水・化学物質の削減	水使用量の削減	節水への意識改善	調合担当 充填担当	各責任者
		(洗浄時ホースから出しっぱなしなど)		
	薬品使用量の削減	使用量を理解し使用ルールを厳守		
		(必要以上に使用しないなどの周知徹底等)		
品不適合の削減	人為的ミスの削減	作業員のミスを軽減	調合担当 充填担当	各責任者
		(手順書の徹底、確認の徹底等)		

6：環境目標及び環境経営計画の実績

実績値は、2023年4月～2024年3月までの集計

項目		目標	実績	目標との差異	評価
①二酸化炭素削減に関する項目					
電気使用量（kwh）※1	総量	956,281	894,526	-61,755	◎
	原単位	1,312	974	-338	◎
ガソリン使用量（リットル）	総量	1,586	1,576	-10	○
	原単位	2.17	1.72	-0.45	◎
軽油使用量（リットル）	総量	201	144	-57	◎
	原単位	0.276	0.157	-0.12	◎
灯油使用量（リットル）	総量	380	290	-90	◎
	原単位	0.521	0.316	-0.205	◎
都市ガス使用量（m³）	総量	48,381	53,280	4,899	×
	原単位	66.37	58.04	-8.33	◎
液化石油ガス（kg）	総量	46	36	-10	◎
	原単位	0.063	0.039	-0.024	◎
総CO2排出量（kg-CO2）	総量	468,426	475,966	7,540	○
	原単位	643	518	-125	◎
②廃棄物削減に関する項目					
廃プラ（固形燃料化）（kg）	総量	14,022	11,320	-2,702	◎
	原単位	19.23	12.33	-6.90	◎
廃プラ（サーマルリサイクル）（kg）	総量	8,949	12,670	3,721	×
	原単位	12.28	13.80	1,522	×
汚泥（kg）	総量	37,554	39,960	2,406	○
	原単位	51.51	43.53	-7.98	◎
食品廃棄物排出量（kg）※2	総量	11,163	9,271	-1,892	◎
	原単位	15.31	10.10	-5.21	◎
③使用水に関する項目					
上水（m³）	総量	6,589	7,944	1,355	×
	原単位	9.04	8.65	-0.39	○
地下水（m³）	総量	13,576	11,048	-2,528	◎
	原単位	18.62	12	-6.59	◎
④化学物質に関する項目					
エクリン110号（kg）	総量	152	260	108	×
	原単位	0.209	0.283	0.074	×
エクリン3号（kg）	総量	38.0	40	2	○
	原単位	0.0521	0.0436	-0.009	○
プロセンテ除菌漂白剤（kg）	総量	228	320	92	×
	原単位	0.313	0.349	0.036	×
⑤発生抑制及び再生利用に関する項目					
発生量原単位（単位：kg/百万円）		13.86	※3 10.10	-3.76	◎
再生利用実施率（単位：%）		97.4	96.9	-0.50	○
発生抑制量※4			11026.0	0	○
⑥不適合製品の発生件数削減					
不適合製品の発生件数 （単位：件/年）		1	0	-1	◎

評価：（◎；目標との差異±10%以上）（○；±10%以内）（×；-10%以上）

※1 電気の排出係数は平成30年度分環境省2020.1.7公表の東京ガス排出係数0.398kgCO₂/kWhを使用

※2 2023年度食品廃棄物発生量9,271kg＝不良品・賞味期限切れ商品5,750kg＋加工用いちご残渣・譲渡3,521kg＋遊休原料・商品等0kg

再生利用等：「熱回収量」5,750kg 飼料・肥料に使う「再生利用量」3,521kg

※3 発生量9,271kgを2023年度売上918百万で割った数値となる

※4発生抑制量＝（22.110－10.099）×918百万円＝11026

※目標原単位は、2018年度売上729百万円を割った数値。実績原単位は2023年度売上918百万円で割った数値

7：環境経営計画の取組結果とその評価、 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

7. 1 環境経営計画の取組結果とその評価

(1) 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量削減に向けた項目に関してほぼ目標を達成した結果でした。

活動を通して従業員の意識向上が成果となったと考えます。

次年度も全員で協力し実施しながら目標達成に向けて従業員一同活動して参ります。

(2) 廃棄物排出量の削減

固形燃料化の廃プラは昨年より大幅に削減できた。原料容器のプラスチックから段ボール容器に変更したのが良かった取り組みです。

食品廃棄物排出量が目標より大幅の削減できた。お客様の要望に沿った生産量で製造したことで、商品の賞味期限切れが少なくなった。

(3) 使用水量の削減

今年度は地下水は目標達成となりました。上水は従業員の節水に対する意識が薄くなってしまい、再教育を行い次年度は目標達成出来るよう活動して参ります。

(4) 化学物質の削減

目標未達成でした。製造アイテムの変化もあると思いますが、使用基準等の再教育を行い次年度は目標達成に向けて活動して参ります。

(5) 発生抑制及び再生利用の増加

発生抑制量は従業員一同取組んだ成果で目標達成できた。

食品廃棄物発生量は9,271kgであるが、その内熱回収量は5,750kg

再生利用量（いちごの搾汁後の残渣を飼料）として3,521kg

次年度も再生利用実施率の向上に向けて活動して参ります。

次年度も食品廃棄物発生量を削減して参ります。

(6) 不適合製品の発生件数削減

従業員による思い込みによるミスの低減並びに機器の破損による異物混入を未然に防ぎ、不適合製品の削減に努めます。

二酸化炭素関係

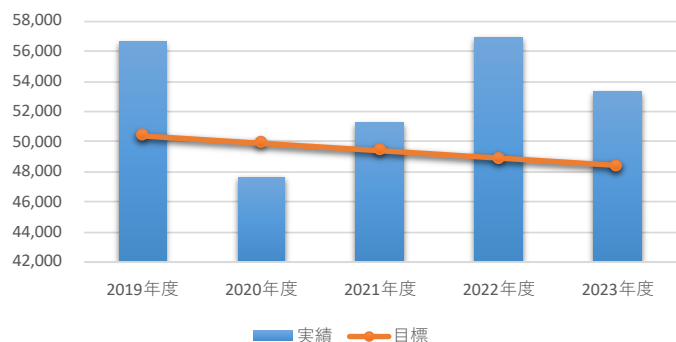


電気使用量（単位：kWh）



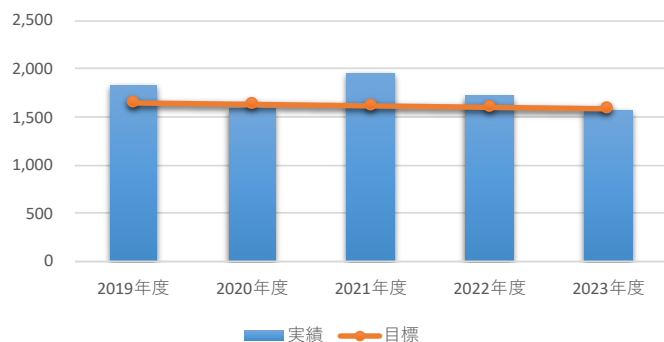
目標達成

都市ガス使用量（単位：m³）



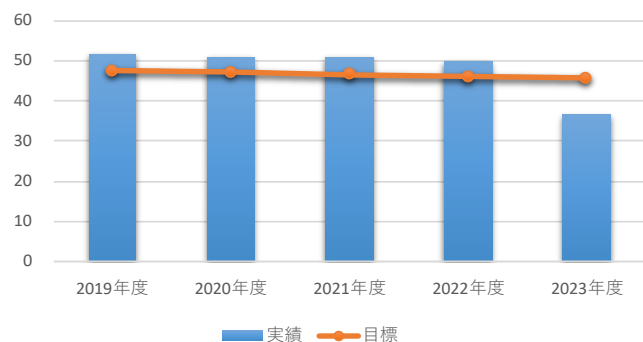
目標未達成

ガソリン使用量（単位：リットル）



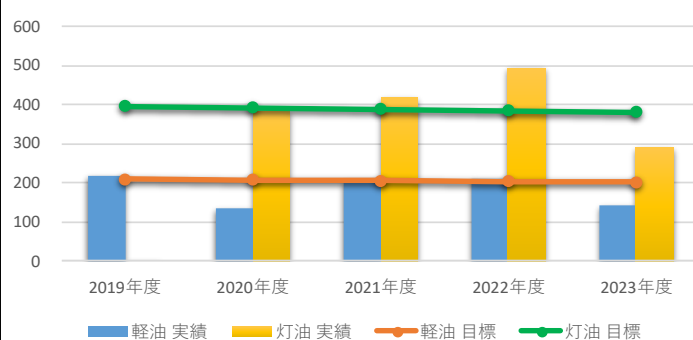
※社有車1台をエコカーに交換

液化石油ガス（単位：kg）

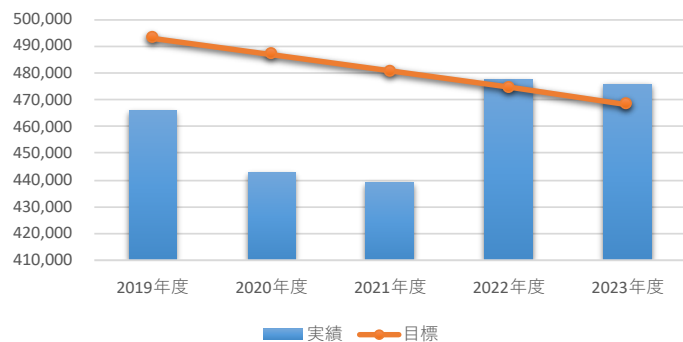


目標達成

軽油 & 灯油使用量（単位：リットル）

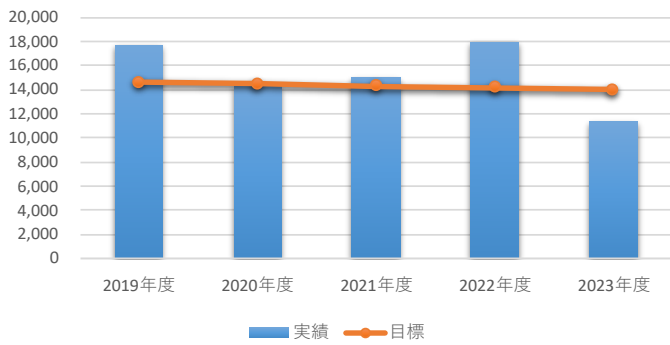


総CO₂排出量（kg-CO₂）

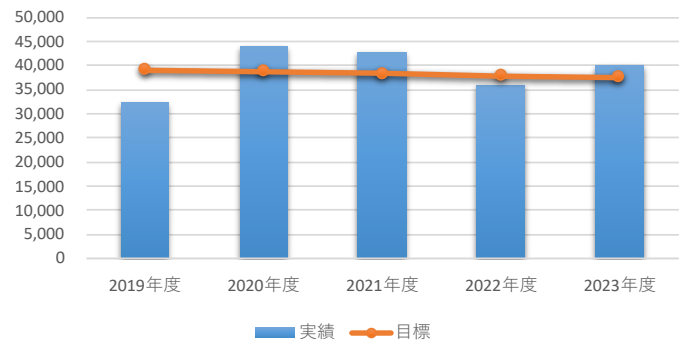


廃棄物関係

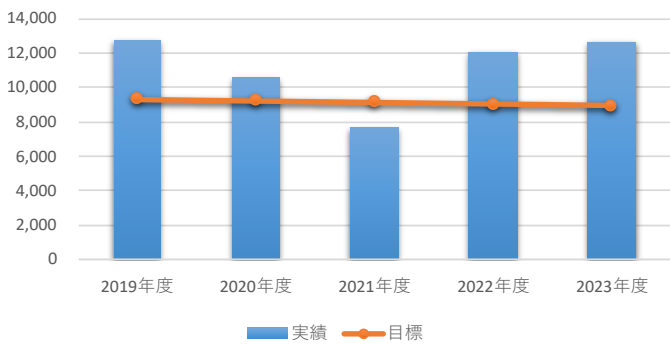
廃プラ：固形燃料（単位：k g）



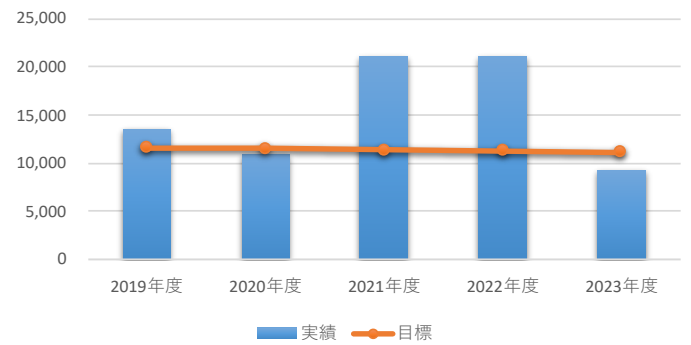
汚泥（単位：k g）



廃プラ：サマールサイクル（単位：k g）

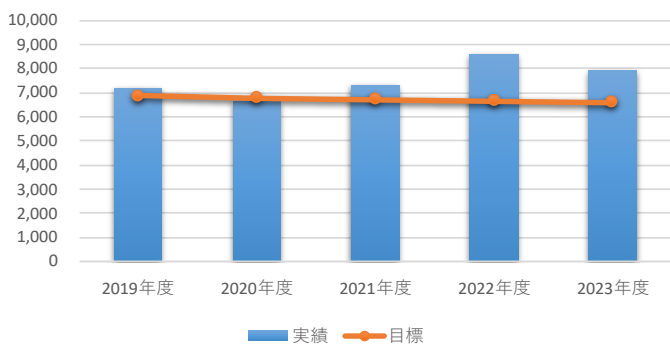


食品廃棄物排出量（単位：k g）

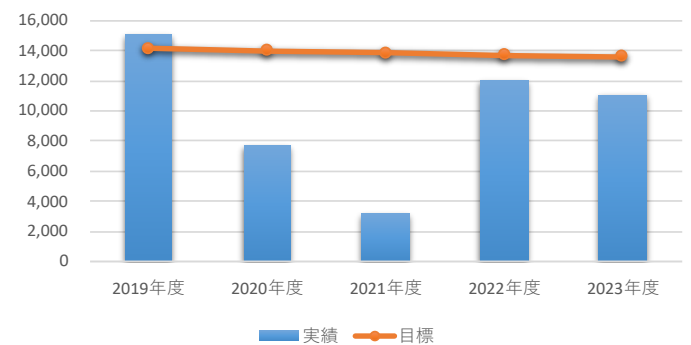


使用水関係

上水（単位：m³）



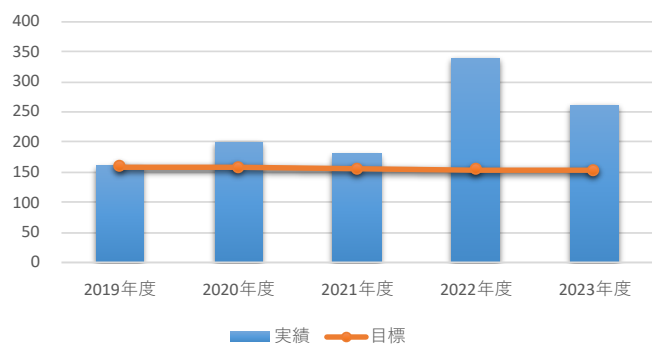
地下水（単位：m³）



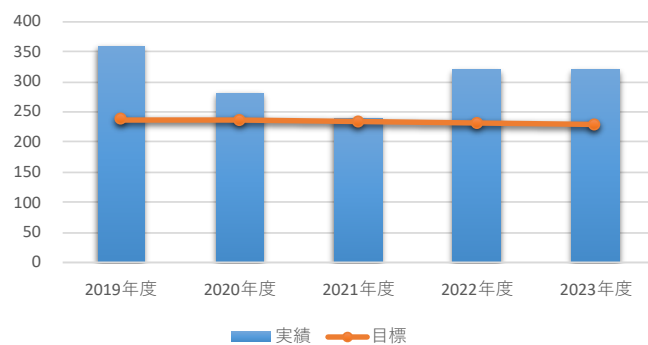
化学物質関係



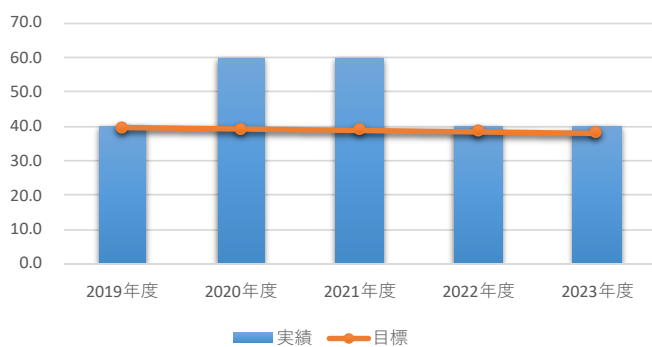
エクリン110号（強アルカリ）（単位：kg）



プロセンテ除菌漂白剤（12%次亜塩素酸）（単位：kg）



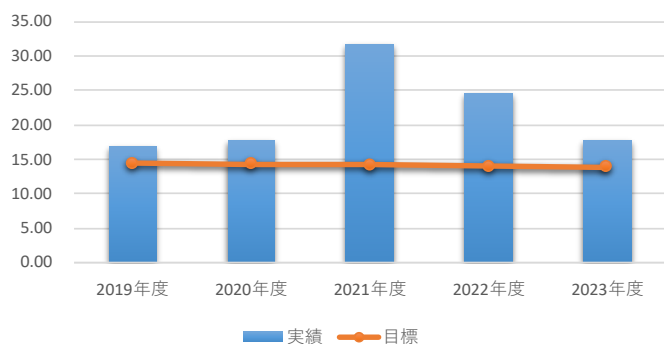
エクリン3号（弱アルカリ）（単位：kg）



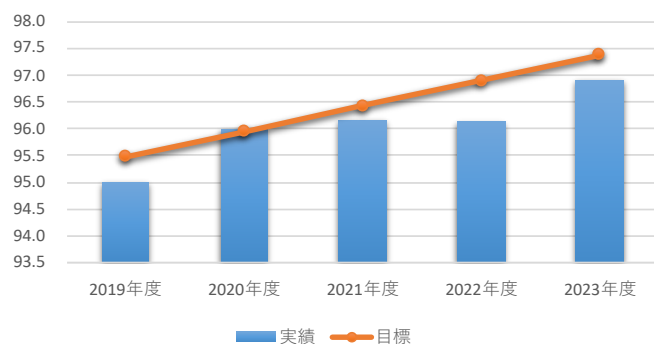
発生抑制&再生利用関係



発生量原単位（単位：kg/百万円）



再生利用実施率（単位：%）



9：主な社内活動の紹介①

環境経営方針7. 社会との共生についての取り組み

地域貢献活動



会社周辺の掃除を実施し、地域住民の一員としてより良い環境づくりに貢献したいと考えております。

避難訓練（消火訓練）の実施



CO₂排出量削減取り組み

充填室LED交換



充填室の照明を全てLEDに交換しました。

10：主な社内活動の紹介②

目 各種検定



eco検定

正式には、『環境社会検定試験』といい、毎年2回試験が実施されています。試験の点数は100点満点で、70点以上取れば合格で、合格した人は「エコピープル」として認定されます。

自然の恵み（農産物）を拝受して成り立つ食品製造業だからこそ、環境問題が最重要課題の一つであることを認識し、エコな食品製造を目指す、「エコピープル」たち。

今年は1名増えました 😊

エコ検定合格率：100%



SDGs検定

2019年より始まった「SDGs検定」SDGsの基本的な理解、世界で起きている課題や、その取り組みに関する幅広い知識の習得を目指す検定です。

今を生きるものとして・・・「地球の未来」、「次世代」に対する責任を持ち、ビジネスや日常生活において、SDGsの目標に貢献したいと考えております。

今年は1名増えました 😊

SDGs検定合格率：100%

農福連携による加工用いちごの収穫作業を実施しました



農福連携の取り組みは今年で5年目になります。

生鮮販売が終了した6月1～2週にかけて、いちご農園で収穫作業を福祉施設事業所の利用者様が行う取り組みになります。

収穫した計660kgのいちごは、いちごソースに加工しました。



社有車1台をエコカーに更新しました



排気ガスの排出量が大幅に削減されることに伴い、有害物質の排出量も減少する事で地球環境を保護し、大気汚染問題の改善に貢献できると考えております。



12：環境関連法規等の厳守の状況確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

適用される法規制	対象施設設備等	主な遵守事項	評価
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物、 産業廃棄物	廃棄物の管理、委託契約、 マニフェスト管理、定期報告、 委託先現地確認	○
フロン排出抑制法	空調設備、冷凍庫	適切な設置場所、使用環境、 機器の簡易点検、定期点検、 漏洩時の措置、点検整備に係る 記録等の保管	○
水質汚濁防止法	排水処理施設	特定施設設置・変更時の届け出、 排水水の汚染状態の測定・記録の保 存、条例の排水基準の順守	○
食品リサイクル法	食品製造品	食品廃棄物発生抑制の取組、 再生利用実施率	○
プラスチック資源循環 促進法	プラスチック使用製品産 業廃棄物	再資源化、熱回収に取組む、また、分 別・再資源化の取組	○
毒物及び劇物取締法	劇物	表示、保管管理、数量管理	○
消防法	製造工場、危険物保管庫	警報設備の設置、点検記録の保管、 少量危険物の保管状況	○
高圧ガス保安法	冷凍機（アンモニア）	知事への許可の届出、保安 教育の実施、定期検査	○
PCB処理特別措置法	低濃度コンデンサー	政令で定める期間内に処分	○

当社に適用される主な環境関連法規等について確認及び評価した結果、特に問題はありませんでした。また、関係当局からの違反などの指摘、訴訟は過去3年間ありません。

13：代表者による全体の評価と見直し・指示

- ・ 二酸化炭素排出量の削減は従業員一人一人の意識の向上が数字として表れており、今後は目標値（計画値）に対しての更なる削減を期待します。
- ・ 上水の使用に関しても、バルブの細かな開け閉めを徹底するよう指導ください。
- ・ 化学物質として、研究開発で使用している試薬品についても、事故につながらないように、（毒劇物等の試薬品は特に帳票管理）管理徹底をお願い致します。
- ・ 食品廃棄物はいろんな再生利用関連業者とのタイアップで、再生できる廃棄物については、積極的に対応をお願いします。
- ・ SDGs 対応の加工用いちご収穫事業は社会貢献企業として継続ください。

2024年 6月 12日
日本ボーチフレーバー株式会社
取締役 齊藤 龍樹